

広島で知つた平和の大切さ

吉野 敦紀

広島市平和記念式典児童派遣事業に参加して、強く感じたことが三つあります。一つ目は、原爆の怖さです。特に平和記念資料館では、ぼくの想像を超える恐ろしい原爆の事実を目の当たりにしました。八月六日の朝八時十五分、いつも通りの生活をしていた人たちが、三千度を超える原爆の熱で一瞬にして蒸発してしまつたり、そのままの姿で黒く焼け焦げてしまつたりしたのです。命が助かつたとしても、放射線を浴びたことにようて、地獄のような苦しみが続き最後には死んでしまつたり、今でも後遺症に苦しんだりしている人がたくさんいるという事実に驚き、本当にひじいことだと怒りを感じました。展示してある絵は、黒や赤の暗くて怖い広島の街の様子で、残酷で衝撃的なものばかりでした。もしごときるなら助けてあげたい、といふ気持ちと悲しさしか感じませんでした。

二つ目は、人間の怖さです。なぜなら、こ

んなにも多くの人が一瞬にして死んでしまう
原子爆弾を作つてしまふからです。ぼくには、
なぜこんな爆弾を作ろうとしたのかが、全く
分かりません。しかし、昔は色々な事情で戦
争が起つてしまい、同じ人間同士ながらに、
大量の人人が死んでしまふ原子爆弾を作つてし
まつたのだと思ひます。戦争になると、優し
さや思ひやりも忘れて殺し合つてしまふ人間
の怖さが分かりました。

三つ目は、平和な社会の尊さです。戦争にな
なるとどんなことになるのか、実際に経験し
たことのないぼくには分かっていなかつたと
思ひます。しかし、今回の派遣事業で、悲惨
な絵や写真、焼け焦げた遺品を初めて目にし
て、ぼくが実際に家族を亡くして、たつた一
人で、本当にその場にいるような気持ちにな
りました。本当の戦争の怖さが少しわかつた気
がします。家族と一緒に今の当たり前の生活
が、平和でどんなに幸せなのかが分かりまし

た。この、戦争のない平和な生活が続くため
に、原爆でたくさんの人が犠牲になつた戦争
があつたことを決して忘れてはならないと思
います。

ぼくたちは、平和記念公園で「原爆の子の
像」に千羽鶴を捧げました。そこには平和を
願うたくさんの千羽鶴がありました。原爆や
戦争の悲劇を決して繰り返してはいけませ
ん。そのためには平和の重要性について分か
てる人が増えなければいけないと思想です。

平和について理解してくれる人を一人でも多
くするためにも、ぼくは広島で知った原爆の
怖さや平和な社会の尊さについて、学校の友
達や先生、家族などたくさんの人に伝えてい
きたいと思います。

派遣団の一員として、広島での貴重な体験
をさせて頂きありがとうございました。

コクヨ ケ-10 20X20